

教育委員会だより

令和5年6月22日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

4年ぶりに勢揃い！ ～春の運動会・体育参観日～

5月下旬から6月中旬にかけ、市内の小学校で運動会や体育参観日が開催されました。コロナ禍の3年間は、分散開催や保護者の参観制限など様々な工夫をして実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、今年は全校が一堂に会し、多くの参観者が見守る中で開催することができました。カメラを片手に声援を送るご家族やそれに応えようと懸命に競技・演技に望む子どもたちの姿は本当にステキでした。また、準備期間が短い中、それでも所々に子どもが主体となって会の運営に携われるような配慮がなされていました。

春から夏へと急激に変化する気温や湿度への身体への対応(温熱順化)も進む中、こまめな給水など熱中症対策にもよく配慮されていました。コロナ禍は第9波の入口に差し掛かっているといわれますが、それをも吹き飛ばすような子どもたちの姿に、きっと参観のみなさんも元気をもらったのではないのでしょうか。



春の運動会・体育参観日は、小学校7校で開催されました。あと6校と全中学校については、9月以降に開催される予定です。

「うわー、すごい！」～食育センター見学～

6月13日から、小学校3年生の食育センター見学がスタートしました。昨年度から始まり、2年目の取り組みとなります。バスで到着した子どもたちは、まず食育センターの大きさにビックリ！施設説明では、センターからどのように学校給食が提供されているかに興味津々でお話を聞くことができました。施設内見学では、実際に調理している様子を見学しました。見たことのないスライサーや調理釜などの調理機器を見て、驚きの声を上げていました。目を丸くして調理の様

子をのぞき込む子どもたちに、調理員さんが笑顔で手を振ってくださる一幕もありました。企業連携の活動として(株)雪印メグミルクの方から牛乳についてのお話を聞くメニューや、きれいに手洗いができているかを体験的に学ぶメニューもありました。初めての体験に、子どもたちも大喜びでした。



また、翌14日と16日には、小・中学校や幼稚園に「たじっこ給食」として手作りイチゴジャムが提供されました。「たじっこ給食」は、市内産の農産物を学校給食で扱う取り組みです。今回は甘原町のイチゴ(品種:章姫)160kgを使用し、手間暇かけてジャムにしました。各教室では、栽培の様子や生産者の紹介をまとめた動画を視聴しながら、パンに塗ったジャムをおいしくいただきました。

安全・安心な学校給食の提供とともに、様々な取り組みを通して「食に関心の高い子」「地場産物を食べて地域に愛着をもつ子」が育つよう発信していきます。

力強く発信 ～わたしの主張2023 多治見市大会～

6月17日(土)、バロー文化ホールにおいて『わたしの主張2023 多治見市大会』が開催されました。小学校区の主張大会で最優秀賞に選ばれた小学生13名、中学生13名が、様々なテーマについて自身の考えを発信しました。日常生活の中で感じてきた身近な話題から、平和や命の尊さ・動物愛護・共生社会・環境問題やSDGsなどの今日的な課題に言及する児童生徒もいました。



発表内容はバラエティーに富んでいましたが、発表に向かう姿勢は一様に質の高いものでした。校区大会から少し時間があつたこともあり、原稿を暗記したり、声の調子や速さに変化を付けたり、身振り手振りを加えたりすることにはさらに磨きがかかり、とても力強く発信していました。緊張も力に変えていました。

ややもすると自己主張を苦手とする子も多い中、本当に堂々と発表する姿は立派でしたし、その発信力は、未来への希望を感じさせるものでした。

＜最優秀賞＞ 小学生の部 中村 岳さん(根本小学校6年)

中学生の部 森 瑠衣さん(多治見中学校3年)

中学校の部で最優秀賞の森さんは、県大会への出場をめざし、7月4日に行われる東濃地区出場者代表選考委員会(原稿と動画による審査)に駒を進めます。